

令和 7 年 9 月 2 日

報道機関各位

熊 本 大 学

令和7年度文学部コミュニケーション情報学科集中講義 『情報技術応用演習』の実施について

平素より、本学の教育、研究、社会貢献等への取り組み等に関して取材を賜っており感謝申し上げます。

さて、文学部コミュニケーション情報学科では、夏季集中講義として『情報技術応用演習』を実施します。（詳細は、別紙をご参照ください。）

つきましては、取材をご希望される場合には、事前に以下担当（E-mail）宛へご連絡いただくようお願いいたします。

なお、報道機関の方に限らず、一般の方の見学も歓迎しますので、周知いただきますよう併せてお願い申し上げます。

【特記】

各開講日によって開催場所が異なりますので、別紙をご参照ください。取材をご希望される場合には、E メールにて社名、代表者、連絡先、参加人数を以下担当まで送信ください。なお、受付期間は、準備の都合上、各開講日の 3 日前までとさせていただきます。フィールドワークについては、先方の了承が必要になるため、お断りせざるを得ない場合もあること、ご了承ください。

また、取材の際は、警備の都合上、必ず、社名入りの腕章を着用してください。

【担当】

熊本大学大学院人文社会科学研究部（文学系）

特任准教授 江川 良裕

〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2 丁目 40 番 1 号

E-mail: ekawa@kumamoto-u.ac.jp

TEL: 096-342-2460

文学部コミュニケーション情報学科『情報技術応用演習』
「地域における多文化共生 ～ 価値創造人財育成」授業計画

担当教員:	佐々木伸吾, 江川良裕
授業計画:	講義・演習・プレゼンテーション
開講年次(学年):	2 年生以上
開講形態	前期 夏期集中 15 回 [2 単位]
開講時期:	2025 年 9 月 9 日(火), 10 日(水) 2～4 限(10:25～16:10) 講義・演習 2025 年 9 月 11 日(木), 12 日(金) 3～4 限(12:55～16:10) フィールドワーク 2025 年 9 月 16 日(火) 2～4 限(10:25～16:10) グループワーク 2025 年 9 月 19 日(金) 3～4 限(12:55～16:10) 公開プレゼンテーション
教室:	講義・演習・グループワーク: 文法棟 A2 教室 フィールドワーク: 熊本イスラミックセンター(熊本市中央区) 熊本市国際交流会館((熊本市中央区) 玉東町役場, GOJOplus(熊本県玉名郡) くまかい協同組合(熊本市東区) 桜十字病院(熊本市南区) 公開プレゼンテーション: 熊本大学くすのき会館

授業の目標・コンセプト

熊本県では、農業や林業を中心に外国人労働者の受け入れが進んでおり、また半導体受託製造の TSMC の進出もあり、県内で暮らす外国人が急速に増えています。2024 年の熊本県における外国人の人口は 2 万 5,000 人を突破、増加率では前年比+24.2%と全国一位で、今後もこの傾向は続くことは確実です。

外国人の急速な増加に伴い、公共サービスの多言語対応や仕事の現場でのコミュニケーション支援、防犯・交通安全情報・啓発教育などの提供、日本語や資格取得などに関する学習支援、ごみ分別や交通ルールなどの生活習慣や文化についての相互理解の促進、住民との交流の強化など、色々な面での課題が浮き彫りになっています。

本授業は、多文化共生における地域課題を捉え、大学生の目線・立場から解決プランを考えるアクティブ・ラーニングであり、学生を地域における「価値創造」の担い手として育成することを目的としています。課題を学生が「自分ごと」として捉え、「共感性と現実性のある」解決策を生み出していけるように、産官学が連携してサポートすることが特徴です。「KUMAMOTO KURASU」*1、ならびに桜十字グループ*2が、現場との「橋渡し」をおこない、九州・アジアを舞台に数々のまちづくりやひとづくりをリードしてきた九州博報堂と熊本大学の知見や実践ノウハウを用いて、学生が課題を、取りあげ・考え・議論し、発見する、というプログラム構成になっています。

なお、最終日 9 月 19 日(金)には、学生たちが考えた多文化共生に向けた企画を公開の場でプレゼンテーションをおこなう場を設定しています。県・地元メディア・地元金融機関ならびに大学から審査員を招いたコンテスト形式を予定しており、授業・教育だけで終わらない、学生によって生み出されたアイデアを「産・学・官・金・媒」が連携して地域に実装していくためのスタート・ラインにしたい、と期待しています。

*1 外国人材の適正な受入や多文化共生に関する情報発信や啓発活動をおこなう目的で、県内の企業や団体が JICA の支援を受けて立ち上げた任意団体。

*2 介護の現場への人材の受け入れや海外向けの日本語教育機関の運営など、多岐にわたるヘルスケア関連事業を全国・海外で展開するライフウェルネスグループ。

授業の進め方・概要

授業は、地域課題（テーマ）設定や課題解決に向けたメソッドを理解する「インプット(input)」、地域課題の現場から情報を収集する「フィールドワーク(fieldwork)」、そして生成・選択・開発といったプロセスから課題解決策を生み出す「アイディエーション(ideation)」の3部構成で進行します。

「インプット」では、地域共生社会の本質に加え熊本における現状や課題の整理をおこない、そういった課題を解決し新たな価値を創造するための方法論やプロセス、ツールなどを紹介、演習を通じて基本を修得します。「フィールドワーク」では、県内で仕事や学習をおこなっている外国人を訪ね、彼らの「困りごと」「悩み」「問題」「課題」などアイデアの起点を探す活動をおこないます。そして、熊本での多文化共生を強化・改善する企画を学生がグループ単位で創出するのが「アイディエーション」です。

最終日の公開プレゼンテーションは、学生グループが検討した課題解決および新価値創造の企画を地域の「産・学・官・金・媒」に向けて提案するコンテスト形式になっており、審査員として以下の5名（敬称略）をお招きします。

樺本麻理： 熊本県 国際・くまモン局長
 小山田吉宏： 株式会社九州フィナンシャルグループ 執行役員 事業戦略部長
 荒竹貴之： 株式会社熊本日日新聞 業務局業務推進本部 地域創成部長
 小野史修： 熊本朝日放送株式会社 地域プロモーション局 プロデューサー = 担当局長
 デブコタ ハリ： 国立大学法人熊本大学 大学院人文社会科学研究部 助教

【本科目全体の流れ】

プログラム	内容・備考 / 担当者
第1回：9月9日(火)2限 オリエンテーション	文法棟 A2 教室 本授業について：江川(熊本大学)、佐々木(九州博報堂) • 授業内容や評価方法などの案内に加え、受講生に求められる作業課題などを説明します。
第2回：9月9日(火)3限 講義	文法棟 A2 教室 多文化共生社会概論、熊本における課題：遠藤(熊本県立大学)・ヴィルヘルム(JICA)、上村(桜十字グループ) • 文化的背景が異なる人々との共生について、日本および熊本の現状と課題および共生に向けた試み
第3回：9月9日(火)4限 講義	文法棟 A2 教室 地域における題解決とは(1)：佐々木(九州博報堂) • 地域先導型課題解決の必要性和そのソリューションの枠組み
第4回：9月10日(水)2限 講義・演習	文法棟 A2 教室 地域における題解決とは(2)：佐々木(九州博報堂) • 地域先導型課題解決の事例分析(アイデア発想の原点、問題と課題の理解、課題の言語化)
第5～6回：9月10日(水)3～4限 講義・演習	文法棟 A2 教室 熊本における多文化共生に関する課題検討：佐々木(九州博報堂) • 熊本における多文化共生の現状に対する個人レベルの体験や想いの言語化 • フィールドワークでのインタビューのベースとなる仮説づくり(リボンフレーム©の利用)
第7～8回：9月11日(木)3～4限 フィールドワーク	イスラミックセンター、熊本市国際交流会館、玉東町役場(GOJOplus)、くまかい協同組合 多文化共生の現場取材・インタビュー • イスラム教信者を超えた地域コミュニティとしても機能するイスラム教寺院、ウクライナ避難民受入れや在住外国人との共生を推進する自治体および一般社団法人、外国人技能実習制度に対する支援を提供している協働組合への訪問、関係者に対するインタビュー

第9～10回: 9月12日(金)3～4限	桜十字病院
ディスカッション	多文化共生の現場取材・インタビュー
フィールドワーク	- 医療・介護の現場で働く技能実習へのインタビュー - 桜十字グループがミャンマーに開設している日本語学校に対するZOOMインタビュー
	シェア&リフレクション
	フィールドワークで得た情報の共有およびディスカッション
第11～13回: 9月16日(火)2～4限	文法棟 A2 教室
グループワーク	企画立案・成果物作成 グループ・ワーク
	グループ単位での多文化共生における課題解決に関するテーマ設定と企画案の作成
第14～15回: 9月19日(金)3～4限	熊本大学くすの木会館 レセプション・ルーム
プレゼンテーション	コンテスト形式での公開プレゼンテーション
	熊本で多文化共生を進める「産・学・官・金・媒」を代表する組織から審査員を迎えて、企画コンテストを開催

フィールドワーク先

イスラミックセンター(熊本市中央区)

- 熊本のイスラム教信者が集うマスジド(イスラム教寺院)。2016年熊本地震の際には避難所としての機能や全国のマスジドからの支援を受け、宗教に関係なく支援物資等を共有したことで知られる。

玉東町役場 / GOJO Plus (玉名郡玉東町)

- 玉東町は、人口約5,200人という小規模事態でありながら、5世帯15人のウクライナ避難民を自治体主導で受け入れている。
- GOJOplusは、多文化共生や国際協力などの分野で活動する一般社団法人で、町と連携し、日本語や生活情報の支援などをおこなっている。

くまかい協同組合(熊本市東区)

- 特定技能制度、外国人技能実習制度における実習生と企業の仲介、サポートをおこなう組合で、海外人材の入社前研修や入社後の生活指導などをおこなっている。

桜十字グループ(熊本市南区)

- 介護現場での外国人を積極的に採用しているほか、ミャンマーとフィリピンに日本語教育機関を設立するなど、海外人材の育成に注力している。

講師・ゲスト(敬称略)

佐々木伸吾:	株式会社九州博報堂 マーケティング局 局長
上村啓輔:	桜十字グループ 人材開発本部 本部長
遠藤浩昭:	Kumamoto Kurasu 会長 / 熊本県立大学 国際教育交流センター 特任教授 / 熊本県 国際政策相談役
ヴィルヘルム・ヨハネス:	J Kumamoto Kurasu 事務局長 / JICA 九州 国際協力推進員
江川良裕:	熊本大学 大学院人文社会科学研究部 特任准教授